趣味「ハマってます!」

「総武線でドアの近くに立ってスマホをいじっていたらほぼつぶやいてますね」

フォロワー数は3年余りで25万人を突破

志茂田 景樹さん(73歳)

作家

ツイッター

ハデハデの衣装と髪形に多くの人が振り返る。そんな人々を気にするふうもなく麻布十番の通りにたたずむのは、直木賞作家の志茂田景樹さん。ツイッターが趣味で、フォロワー数は25万人を超えた。この夏に悩める人々への人生指南書ともいうべき小説「人生は、もっと簡単にうまくいく」(宝島社)を上梓したばかり。そのツイッター人生は──。

「隣に志茂田がいる」

「毎日最低でも2つや3つはつぶやきをやってますね。『今朝は5時半過ぎに起きた』みたいな単純なものから『午前中は打ち合わせでP社へ。いま電車の中』とか。総武線でドアの近くに立ってスマホをいじってたら、ほぼつぶやいてますね。

人生は、もっと簡単にうまくいく
カゲキ・ギブの61の教え
志茂田景樹

実はボクの目撃情報は多くて、つぶやきの最中に手を止めて『志茂田景樹』とキーワードを打つと、『いま、隣に志茂田がいる』な～んてつぶやいてる若者がいたこともありました。

互いにチラッと目が合って『こんにちは』って感じで軽く頭を下げると、彼もバツが悪そうにペコリと。ハハハ。ボクがよくテレビに出ていた20～30年前だったら、きっと『キャ～、カゲキちゃ～ん、キャ～』って電車の中が大騒ぎになってましたね。さすがに今の若者はクールで声を掛けたりはしない。全体的におとなしくなったんですかねぇ。

ま、もっとも、つぶやきは短いときは10～15秒で打っちゃう。だから、電車の中でスマホをいじっていてもボクをジロジロ見る人はいませんね」

話を聞いたのは麻布十番の坂道の途中にあるガラス張りの喫茶店。8月半ば、猛暑日の昼下がりだ。

質問に返事を書く

「始めたキッカケは、作家仲間の内藤みかさんの本です。3年前に、彼女が本を書いて、著者贈呈本を送ってくれたんです。それを読んでみたら、140字以内のメッセージ、ツイッターのことが書かれていて興味を持ったんです。気軽そうだし、やってみようかと。

スタートは2010年の4月28日。最初は『来週〇日に講演会があります』とか『今月末に本を出します』とかの告知でした。もちろん、ときには『いま、神宮なう』な～んて意味のないつぶやきもありましたけど。でもね、よくよく考えたら告知だけではつまらない。140文字もあるんだから、何か伝えたいとき直接的に伝えられるでしょ。それで手法を変えたんです」

この辺りから、社会で起きたさまざまな事象に対しても〝つぶやき〟を始める。自分の考えをハッキリ打ち出して。反応は予想以上に早かった。

「人間は意識しないけど、常にさまざまな出来事に対して漠然とした〝思い〟を持っているんです。普通はこうだけど、こう考えてもいいんじゃないかとか。だから、ボクのつぶやきに対して、共感もあったし反論も出た。どんどんフォロワーが増え始めたんです。

リプライといいますけど、ボクのつぶやきへの返信に質問が付いてくるようになって。2つ、3つのときもあれば、20くらいのときもある。たとえば、それに対してボクも『落ち込んだっていいんだよ。悪いと思わないで。それからどうするかが大事』みたいな返信をすると、また増えて……」

かくして、フォロワー数は25万人を超えた(9月18日現在)。今年73歳。志茂田先生、やるじゃないか。

安藤美姫で伸びた

「25万人を超えて、今は株でいえば調整局面ですね。ここで何かで弾みがついて、2ちゃんねるにスレッドが立つようなら、ね。確か、13万人を超えたときも若者を中心にポンと跳ね上がった。春には安藤美姫のことをブログで書いたら、2000を超える反響があった。ツイッターもリンクしてるんで、800～900くらい伸びましたね。

今では、事務所でパソコンに座って原稿を書き始めるときも、必ず4つ、5つの質問に答えることにしています。これが一種の気持ちの切り替えというか、頭を使う〝助走〟になるんですね。移動時間につぶやくことも多い。講演などで大阪だ、広島だと東京駅から出かけるときも、品川辺りでスマホに向かってます。もう、習慣ですね、ハハハ」

興味がある人は、ツイッター(https://twitter.com/kagekineko)をのぞいてみよう。